Hara, Miss S. Kurosawa and Mr. H. Ohashi, the members of the 4th Botanical Expedition of the University of Tokyo, for placing the valuable collections from Kala-Pokhari of the Himalayas and a cultivated tetraploid plant from Karuizawa of Japan at my disposal.

Main literatures

Gregory, W. C. 1941. Trans. Amer. Philosoph. Soc. n. s. **31**: 441–521. Hara, H. 1966. The flora of Eastern Himalaya: 88. Hasegawa, K. M. 1969. Journ. Jap. Bot. **44**: 76–84. Langlet, O. 1927. Svensk Bot. Tidskr. **21**: 1–17. —— 1932. Svensk Bot. Tidskr. **26**: 381–400.

*　　*　　*　　*

前回の報告でヒマラヤ・ブータンのコウライショウマが4倍体である事，そしてヒマラヤ一雲南一帯に産するものはおそらく皆4倍体であろうと述べた。今回幸いにも東京大学の原寛教授と黒澤幸子氏及び大橋廣好氏の御好意によりヒマラヤの材料が新たに採集されたのでしらべてみると，先回の推測に反して2倍体（胚珠細胞 2n=16, PMC n=8）であった。この2倍体を先回の4倍体と比較したところ，気孔の大きさと花粉粒の大きさが幾分か4倍体の方が大きく，葉片や花弁の形質などもやや異ることが分った。しかし，前報にも述べた様にコウライショウマの形態の変異は著しく，それに比べればこの2植物間の変異はわずかなものである。ヒマラヤ地方においてはこの様な形質のわずかな変異が倍数性に関連しているのかもしれないが，分類学上この2倍体と4倍体を区別して扱うことは，今の段階では不可能と思われる。ただヒマラヤ地方にはコウライショウマの2倍体と4倍体の2つのサイトタイプの存在する事が明らかになったのでここに報告し，前報の一部を訂正，追補したい。

□**The Oxford book for food plants.** B-5 版 pp. 206（内カラー図版 95 枚）Oxford University Press, London 1969. Oxford Series の内の一冊で，啓蒙書である。全世界の主要食用植物の着色図譜。図は Barbara Nicholson 女史の手に成り，2-数種づつを集めて描かれている。図柄は少し古めかしい印象があるけれども，精密で正確，それに美しいから充分に楽しみながらみることができる。対面には要領をえた記述がある。種類は穀類，砂糖原料，油脂，ナット，豆からはじめて果樹，根草，葉菜，瓜，香辛料等にわたるが，熱帯の果樹，欧州の果実類は主な品種も区別して描かれているし，西アフリカのバンバラビーンやアンデスの球根カタバミ等をも含んでいて，我々の目には新らしいものも多いから参考にも十分なる。定価 55 s. 2,970 円。

（前川文夫）